

## 会議報告

会議名称	「元気な入間」まちづくり推進・協働ガイドライン策定会議 第12回会議
開催日時	平成19年10月15日(月)午後7時00分～9時10分
開催場所	市民活動センター 3階 活動室1
出席委員	渡部直也・鳥山政之・岩崎廣司・太田恵子・亀谷容子・北田尚美・ 斎藤次雄・関谷佳代子・清水英弥・瀧澤良生・中澤 岳・原口喜代美・ 堀夫紗子・宮岡利幸・文字山啓子  アドバイザー 犬塚裕雅  以上15名
欠席委員	岡野 亘・清水洋行
傍聴人	無し
事務局	齋藤主幹(司会)・西澤主査
会議の概要 及び 決定事項	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) ガイドラインの骨子作成について</p> <p>(2) 協働ガイドラインのワークショップについて</p> <p>(3) その他</p> <p>[主な内容]</p> <p>○ 渡部会長 回を追うごとに緊張感が出てきた。忙しい中とは思いますがガイドライン策定に皆さんのお力をいただきたい。</p> <p>○ 事務局から本日の進行目標について説明(計画書のフレームについて説明)--- 一般的フレームの中で「策定の意義」「現状の分析」「課題の抽出」「基本的方向性」「具体的取組」とあるが「基本的方向性」を明らかにしていく必要がある。また全体の整合性について協議していただきたい。基本的方向性や協働の形態など各部に関わるものの提案項目や要不要について、今日の到達点としたい。</p> <p>次回の策定会議(11月19日)に向けて→各部会で成文化→合体してアンカーマンが整理整頓→本会議で修正→ワークショップで提示(表1参照)</p> <p>○ 渡部会長 基本的方向性をどう入れ込むか。協働の形態をどう整理するか。各部会から中身の報告と確認質疑。全体を通しての議論としたい。また、ワークショップで議論してほしい事を話し合いたい。</p>

○各部会の説明

◇第1部会 前回意見のあった部分で、序論の目的について、位置づけについて、前回の本会議で図で示した方がわかりやすいとの話があったので、図を作ってみた。

総論は、概念・目的・原則・形態までを書こうとすると、どこにでも載っているような一般論的なものになる。基本的方向性が明記されていない中でいろいろな形態をまとめようとするとう無理がある。形態については基本的方向性が定まった後が良いのではないかと。

第1部会の検討（意見等）

・図はわかりやすいが「元気」が多いので少し「元気」を省けないか。

☆ガイドラインまでに都市宣言からまちづくり条例と経緯があるので、この2つを取ってしまうと意味がなくなってしまう。

・協働の形態は次のところへ送ってもよいのではないかと。

☆1行ずつ委託等内容を考えたが一般的なことしか入らなかった。

・目的-行政職員が誰でも同じ対応ができるように目指す事が目的になるのではないかと。

・目的で、第1部会は手順書という定義で書いているが、手順書=マニュアルとして考えているのか、またガイドライン=手順書でよいか。

・手順書はもう少しマニュアル的ではないか。大きな協働に対する考えと手順を示す2つが入っていればガイドラインになる。

・ガイドラインは指針。もっと「こう有るべきだ」という内容を含めたもの。

・「はじめに」の「まちづくりの担い手で・・・」のところは「協働事業の基本方針」「協働事業の進め方に関する手順書」として入っているので解りやすい。

・(上記同文中の)(入間市の現状を踏まえ・・・)は「協働事業の基本方針」「協働事業の進め方に関する手順書」2つにかかっているのか。

☆そのとおり。

・基本方針と具体的手順書両方を兼ねている。

・第3部会で具体的進め方を考えているので、ここでは基本方針と具体的枠組みを入れる。

・「手順」を「手法」としてはどうか。手順というとかかなり細かい内容まで記したもので、今の段階では難しいかなと思う。

・市民と行政で協働推進指針ということで提案。協働の手順→流れ。協働を効果的に行うための取組みを目標にした。

・手順はもうちょっと先。

・今日の段階では「基本方針と具体的進め方」としてはどうか。  
◇第2部会----骨子の中では「協働の現状と課題」「入間市の目指す協働」となっていたが、2つまとめて「現状と課題」としている。整理してきたなかで形態だけの整理だと入間市だけの形態が抽出されなくて良いのか?となった。「協働の現状と課題」という事でいくなれば「1 基本的事項に関すること」「2 形態から見た現状と課題」の2つに。基本的方向性について特に見出しは付けてないが文章の中で「このような事をやっていく必要があるのではないか」という定義で終わっている。「現状と課題」と基本的方向性を一緒に入れるのは難しい。→基本的方向性は別の見出しで。

どこにでも共通しているものは良いが、個々の事例は入れない方が良いと思う。基本的なことは、NPOは現在いくつあるとか、どこでどのような協働が行われているとか、もう少し表現の肉付けをする必要はあるのかなと思う。

各論で基本方針的な所を何処まで入れてくれるか今後調整が必要。

標準的な今後の協働の方向性を示すガイドラインだと思う。こういう形態・状況がある。→何が必要ということまでは各論で言ってもらえると思うが、例えば共催はこういう手順で実行するという具体的な手順までは入れられないだろうと思っている。手続きの標準を示す「基準」又は「要綱作りが必要」で終わるのかと思う。

[策定中のガイドラインの到達点について意見]

・ワークショップで市民意見をフィードバックしてその後3月までできる範囲はここまでと区切るか。手順をきちんと入れるとなれば、その先の動きを作るか。

・予定では後2回の会議でどこまでいけるか。マニュアル化はできないと思っていた。まだ一切外部に投げかけていない。

・まちづくり条例が理念として掲げて、ガイドラインにより具体的に市民と行政の協働が進められる形を想定していた(企画課で始めた当初)。そうしないと会議を重ねるだけで一向に協働が進まない。策定期間の終期は設定していない。ある程度の形はほしい。

・4月当初話したスケジュールをどうするか、皆で話し合う必要がある。

・制度の確立→手順書は別に、というイメージだった。同時は難しい。役所の担当ごとに話しが変わってしまうと困るので制度の確立が必要。

・最終目標は同じだが、積み重ねをしていけば良いと思っていた。

・第3部会の箇条書きの内容では誰がどのような事をやっていくか書かれているが、非常にボリュームがある。どう順番を決めていくのか。第

1にガイドラインの周知、内部の体質改善、市民に対するPRなど実行性のある事業に取り組んでいく必要はあると思う。

・われわれの身の丈でやっていく事も必要。スケジュール的にはかなり絞って、土台の上で段々増す構造が良いと思う。

#### 第2部会の検討（意見等）

・各論で具体的に示す。

・今回の「現状と課題」は解りづらくなっている。前回より漠然とした印象。前回のような表の方が市民にもわかりやすい。

☆ 入間市の標準的ありようを示すものとして個別内容を出していた。

基本的な方向性を示すところで具体的個別事例をだすのはどうか。

☆ 課題を明確にしたものが必要だと思い今回文章にした。表については全体が組みあがった時に考えたい。

「意識レベルがまだまだ弱い」というのが課題→基本的方向性・ビジョン・キャッチフレーズのわかりやすい方向性を示すものがあると良い。

☆ 「市民提案制度」や「評価制度」といったものが無い。これが課題になる。それを各論で制度を作った方が良い、作るべきだと示すのか。

◇第3部会----これを元に入間市全体で方向性を示すと想定している。

（別紙資料「IV各論・・・」参照）前回の第3部会「具体的施策」を「課題」と比較し残すものけずるものに分類し、「施策のネライと内容」とした。各論については「制度・環境・体制」として整理した。何年かかるかわからないが市全体で協働推進体制を作っていく。

第2部会を受けながら第3部会で対応策を考えている。協働の形態は一般的な手順が書ければ入れていく。

協働では活動推進の場として市民活動センターの利用を考えていく。

#### 第3部会の検討（意見等）

・センターが活動推進の場として位置づけるのは解るが、どういうものが協働の可能性のある、どれが協働かを知る「気づきの場」が必要。色々な人が自由に入って意見の言えるもの。協働できることがはっきり解る人しか推進の場は入れないのか。

☆センターとして取り上げているが、皆さんの意見をいただいて、それを反映させていきたい。

☆第3部会として具体的枠はいっぱいあるが、当面どこに絞っていくか議論し3月まではここまで、それより先はこれという風に積み上げていく。

・（第2部会より）今回の案は並べ方等整理されている。ここに書いてあ

るものを第2部会にフィードバックしていく。第3部会で「現状と課題」で不足のものがあれば提案してほしい。

取り組み方でこれだけやる事があって、この方向性を市民にも行政にも投げかけてからでないとならない気がする。ここで決めて持つて行く訳にいかない。「こういう課題があるからこういう解決方法を提起する」と行政と市民に何が出来るか投げかけて、再集約した皆さんの意見を元に次の段階に進めるとよいのではないかな。

☆今回の案は第2部会の内容をまとめたものを元に作成してある。

★フレーム4の「基本的方向性」を第2部会の最後にまとめとして入れてはどうか。

- ・ どのような方向というところまで第2部会で作成する。
- ・ 基本的方向性が今の内容では入っていない。「現状と課題」が抽出されたものに方向性をどこかにはっきり書かないと。
- ・ 「Ⅲ協働の現状と課題」の中に「3課題解決に向けた方向性」として、結果それを受けるのが「Ⅳ協働を推進するための取組み」とすれば流れがスムーズになると思う。

☆課題を出したところで基本的方向性を入れる

- ・ 第2、第3双方に過不足なければ、第3部会の方向性に合わせて基本方針をまとめる。

今日のまとめとして

- ・ 委託・補助金等協働の形態に関しては第1部会では触れない。第2部会でまとめて触れる。
- ・ 第3部会は、協定書・マニュアルはここで作る・作る必要がある、どういう基準かなど入れられれば入れる。第3部会の委託・補助金は、今回のまとめでは必要な項目だけ、それともマニュアルまで作れるか今後の検討具合による。
- ・ 第2部会で基本的方向性を入れることになったが現状と課題の中では違和感がある。小見出しを付けるか、推進すべき大きな課題を入れれば良いか。

☆「Ⅳ 課題解決に向けた方向性」として大きな項目に。(各論がⅤに)

#### ○協働ガイドラインワークショップについて

- ・ 各論はまさにこれからやっていく部分になるが、この所を市民活動団体などや行政職員にしっかり聞いて成文化しようと思っていた。ワークショップでは、「こういう課題に対してどうして行きましょうか」となげかける方が参加する側もわかりやすいと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめに」から「課題解決に向けた方向性」は成文化し、「各論」は箇条書きにして市民団体等から意見聴取したものを反映させていく。</li> <li>・先に出た「気づきの場」も、ワークショップとすると漏れている部分として提案してもらい、盛り込んでいく。</li> <li>・第1、第2部会は成文化したもの。第3部会の箇条書きの3つの柱立てで進めて良いか。→了承。</li> <li>・第3部会の方をお願いしたいのが、各論の中の制度・環境・体制それぞれのねらいを作ってもらいワークショップで補完するイメージで。</li> <li>・「こういう考えで、こうやったらどうか」という頭書きを付けて提示。○アドバイザーより---それぞれの立ち位置がはっきりしてきた。協働のあるべき姿等（表2について）説明。ワークショップは限られた中身になると思う。現状に対する苦情は言いやすい。また利害関係（協働で補助金がなくなってしまう等）も意見が出やすい。理想論は堂々巡りになりやすい。ワークショップに対して皆で意見を出した方がワークショップをする側が専門的ノウハウで応えられる。ただし限界があることもご承知おき願いたい。</li> </ul> <p>4. 閉会</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">会 長 _____</p>	

表1

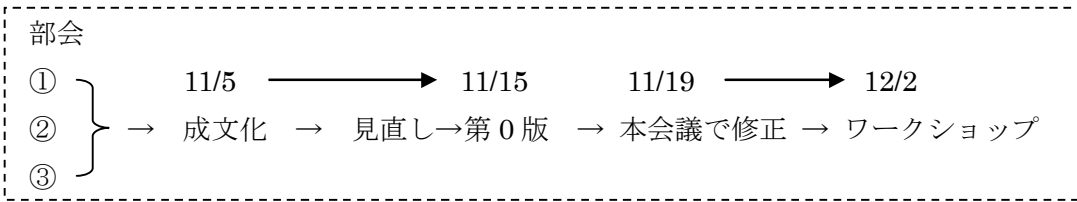


表2

